

さて今回は、受験生が間違えやすいイヤらしい問題も、カンタンなルールを使って秒殺で正解を見抜く方法を紹介しましょう。

まず以下の問題を解いてみてください。

1. () it was raining, we played baseball.

- ①In spite of ②Regardless of ③Though ④With all

2. That is the reason () prevented me from coming in time.

- ①which ②why ③where ④how

3. He began to do a volunteer job and quit gambling, () is even harder to believe.

- ①which ②what ③where ④that

4. We met a group of foreign people, () spoke English.

- ①most of them ②most of the people
③what ④all of whom

5. Of the four students in my class, Martin does his work ().

- ①more carefully ②the least carefully
③less careful ④as careful as Jack

6. If I () you, I would separate from such a man.

- ①am ②were ③have ④am not

7. He () the old lady of her purse.

- ①robbed ②stole ③was robbed ④was stolen

8. I have no idea () to open this container with.

- ①how ②what ③where ④why

【解答&解説】

1.

() it was raining, we played baseball.

- ①In spite of ②Regardless of ③Though ④With all

《解答&解説》

本問を秒殺するためのルールはこれだ。

「前置詞の後ろには名詞(の仲間)しかこられない」

◎名詞の仲間とは、「名詞」「動名詞」「代名詞」名詞節(whether節、疑問詞節等)。

つまり前置詞の後ろに「S+V」「V」「to+do[原形]～」等はこられないのだ。そこで空欄の後ろの構造をみると it was という S+V の構造がきている。そして選択肢の①②④は前置詞だ。ということはこれらは空欄には入れず、正解は③と判断できる。③の Though は(従位)接続詞で、後ろには必ず S+V を必要とする。ちなみに ①④は「～にもかからわず」、②は「～に関係なく」という頻出イディオム。

問題文訳:「雨が降っていたけれど、私達は野球をした」

2.

That is the reason () prevented me from coming in time.

- ①which ②why ③where ④how

《解答&解説》

本問を秒殺するためのルールはこれだ。

「関係代名詞の後ろには『不完全な文』がくる。それ以外(関係副詞、前置詞+関係代名詞、接続詞)の後ろには『完全な文』がくる」

④「不完全な文」とは、S(主語)、O(目的語)、C(補語)、所有格のうち、
どれか1つが欠けた文のこと。

そこで本問の空欄の後ろを見ると、主語の欠けた、いきなり動詞の過去形
(prevented)で始まる文がきている。つまり「不完全な文」。ということは、正解
は関係代名詞のはず。選択肢では関係代名詞は①だけ。それ以外は関係副詞。よっ
て正解は①ということになるのだ。

問題文訳:「それが、私が時間に間に合って来ることができなかった理由なので
す」

3.

He began to do a volunteer job and quit gambling, () is even harder
to believe.

①which ②what ③where ④that

《解答&解説》

まず先程の

「関係代名詞の後ろには『不完全な文』がくる。それ以外(関係副詞、前置詞+
関係代名詞、接続詞)の後ろには『完全な文』がくる」

というルールから、③の可能性が消える。なぜなら空欄の後ろには(主語の欠けた)
is で始まる「不完全な文」があるからだ (where は関係副詞)。

次にこんなルールを覚えよう。

「what が導く節は、基本的にS(主語)、O(目的語)、C(補語)のいずれかにな
る」

④例外は「what we call:いわゆる」「what is more:おまけに」等の決まり
文句的な表現のみ。

そこで空欄の前の英文を見てみると、

He began to do a volunteer job and quit gambling

彼はボランティアの仕事を始め、賭け事をやめた

という「完全な文」があるのがわかる。この英文に更に(この後)S・O・Cといった文の主要素は必要ない(つまり文の主要素は足りている)。ということは、この後に what節など来ようがないのだ。

では正解は which か thatか? that は、これを関係代名詞だと見なすなら、まだ可能性は消えていない。

そこでこんなルールを覚えよう。

「関係代名詞の that は、直前にカンマ(,)や、前置詞があったら使えない」

本問は空欄直前にカンマ(,)がある。つまり(関係代名詞の) that は使うことができないのだ。

そうすると正解は which 。 「, which」は前文の全て(又は一部)を先行詞に取ることができる。本問では、前文全体が先行詞とみたらいいだろう。

☞what は先行詞を必要としない関係代名詞。本問では、前文(全て)が先行詞になっていると判断できた時点でも、what が正解となることはありえなかった。

問題文訳:「彼はボランティアの仕事を始め、賭け事もやめた。そしてそれは更に信じがたいものであった」

4.

We met a group of foreign people, () spoke English.

- ①most of them ②most of the people
③what ④all of whom

《解答&解説》

まず先程のこのルールをもう一度思い出そう。

「what が導く節は、基本的にS(主語)、O(目的語)、C(補語)のいずれかになる」

本問は、カンマ(,)の前で文の骨組みは既にできあがっている(つまりこれ以上文の主要素は必要ない)。

We met a group of foreign people 私達は外国人の一団に会った

ということは、文中でS・O・Cにしか入れない what が空欄に入れるはずがない。次にこんなルールを覚えよう。

「2つのS+Vが、(従位) 接続詞・関係詞・疑問詞の助けなしに勝手に結びつくことは基本的でない」

もし①②を空欄に入れると、上記のルールに違反することになる(We met, most of them[the people]という2つのS+Vが勝手に結びつくことになってしまう)。そこで正解は(関係代名詞の whom を含む)④しかないと瞬時に判断できてしまうのだ。

問題文訳:「私達は外国人の一団に会った。そして彼らの大半は英語を話していた」

5.

Of the four students in my class, Martin does his work ().

- ①more carefully ②the least carefully
③less careful ④as careful as Jack

《解答&解説》

この問題を秒殺するためのルールはこれだ。

「比較級(~er than...)、原級比較(as~as...)は2者間の比較をする際に用いられる。最上級(~est of[in]...)は3者以上の比較をする際に用いられる」

本問は冒頭で

Of the four students in my class

うちのクラスの中のその4人の学生のうちで

と、明らかに3者以上の比較をしているであろうことが予測できる。この時点で正

解は、最上級の②とわかってしまうのだ。

④least は little の最上級。the least+原級で「最も～ない」。

問題文訳: 「うちのクラスの中のその4人の学生のうちで、マーティンは一番いい
加減に作業をする」

6.

If I () you, I would separate from such a man.

①am ②were ③have ④am not

《解答&解説》

本問は、文頭の If、そして、主節中の would という助動詞の過去形から、仮定法の英文だと判断できる。

そこでこんなルールがある。

「仮定法においては、If節には必ず(助)動詞の過去形もしくは過去完了形を用いる」

④つまり仮定法において、if節に「現在時制」「未来時制」「現在完了」等が使われることはない。

具体的には、

- ①現在の(事実に反する)仮定をする場合、仮定法では(If節に)「過去形」を用いる。
- ②過去の(事実に反する)仮定をする場合、仮定法では(If節に)「過去完了形(had+p.p.)」を用いる。

このルールから、正解は過去形の②しかないと秒殺できるのだ。

問題文訳: 「もしボクが君なら、そんな男とは別れるだろうにね」

7.

He () the old lady of her purse.

- ①robbed ②stole ③was robbed ④was stolen

《解答&解説》

rob と steal の語法が決め手になる。まずは以下の語法を頭に入れよう。

①rob A(人) of B(物):AからBを奪う

☞rob の活用は rob - robbed - robbed。

②steal B(物) from A(人):AからBを盗む

☞steal の活用は steal - stole - stolen。

本問は、空欄の後ろが「A(人) of B(物)」となっているので①が正解となる。

ちなみに本問を steal を用いて以下のように表現することもできる。

=He stole the purse from the old lady.

問題文訳:「彼は老婦人からハンドバッグを奪った」

8.

I have no idea () to open this container with.

- ①how ②what ③where ④why

《解答&解説》

この問題を秒殺するためのルールはこれだ。

①疑問代名詞の後には**不完全な文(又は構造)**がくる

②疑問副詞の後には**完全な文(又は構造)**がくる

一口に疑問詞といっても疑問代名詞と疑問副詞があることを知っていただろうか。

疑問代名詞とは具体的には who, whom, which, what など。疑問副詞とは where, when, why, how の4つだ。

㊦疑問代名詞と疑問副詞は、形だけ見れば、それぞれ関係代名詞・関係副詞と同じなので、そう考えれば区別はしやすい。

そして(繰り返すが)疑問代名詞の後ろには「不完全な文(又は構造)」が、疑問副詞の後ろには「完全な文(又は構造)」が続くのだ。簡単な例を挙げてみよう。

(ex) Who broke the door? 誰がそのドアを壊したのだ。

上の英文の疑問代名詞の who の後ろには、主語の欠けた不完全な文が続いている。

(ex) When did you do it?

上の英文の疑問副詞の when の後ろには(you=S, do=V, it=O という)完全な文が続いている。

そこで本問だが、空欄直後の不定詞句には with という前置詞の目的語が欠けた不完全な構造になっているのがわかる。

to open this container with
 ^
 ↑
 withの目的語が欠けてる!

ここから、空欄には疑問代名詞しか入れないことがわかる。となると正解は② (what) しかない。

問題文訳は「この容器をどうやって開けたらいいのかわからない」。この「どうやって」と訳せてしまうところが出題者の罠だったのだ。

ちなみに have no idea は don't know と同じ。

それから「疑問詞+to do[原形]～」は「疑問詞+(す)べきか」と訳すのがポイント。せっかくなので例をあげておこう。

(ex) what to do 「何をすべきか」 which to choose 「どちらを選ぶべきか」
 where to go 「どこへ行くべきか」 how to shift gears 「どうやってギアを変えるか→ギアの変え方」
 when to start 「いつ出発すべきか」 how to live 「どう生きるか→生き方」